

税金のあるべき姿とは

新潟県立長岡高等学校

二年 佐藤 友瞭

最近、税金に関する様々なニュースを耳にする。例えば、消費税増税についてなど、あげてみればたくさんある。また私たち消費者は日々消費税など税金を納めている。しかし、税金を納める側、使う側とももう少し税金というものはどのようなか深く考える必要があるのではないか。

私たちは日々税金を納めている。しかし、それは全員だろうか、と疑ったことはないだろうか。実際脱税事件が報道されたり、テレビの特集で、税金を払おうとしない人が「なぜ税金を払わないのか」というテーマで取材されたりしている番組を見たことがある。本来、税金というものは、日本をよりよくするために国民の全員が協力してお金を払うものではないのか。私は、国民全員がそのような意識を持って脱税しようとする人など到底現れなくなると思う。

問題は税金を納める側だけではない。使う側の人達にも問題はあるのではないか。例えば、政治資金には税金が含まれていて、それらを私的流用や乱用したことにより辞任に追い込まれた政治家が国政や地方の政治家共にたくさんいる。また、国税の数多くの使い道のうち、一五六八億円が無駄遣いだったというのも会計検査院の調査で明らかになった。この

ように、税金を使う側の人達が、国民が働いたお金で贅沢をしていたり、無駄遣いをしていたりしたら税金を払う側の国民はどう感じるだろうか、というものも考えて税金を使ってほしいと思う。

税金を納める側、使う側ともに問題が沢山あることはもう明らかである。では、これからの社会で税金はどのような役割を担っていくべきなのだろうか。

まずは、税金に関する教育をもっと充実させることが重要なのではないか。選挙権年齢も十八歳に引き下げられ、高校生になったらもっと世の中の仕組みがわかっていないといけない時代になった。その世の中の仕組みの一つに税金とはどのようなものなのか、というものが含まれると思う。そうすれば若い世代が真摯に税金を払い、一人一人が税金について考えるようになる。そうすると、税金を使う政治家の方は税金を乱用することなど到底できない、またそのようなことを誰もしようと思わない社会になるのではないか。そう考えると、税金というものを一人一人がもっと重要なものと位置付ける必要が出てくると思う。

これからは人口が少なくなり、税金を払う人数は減る一方社会保障など税金の使い道は増えていく。ただ、一人一人が税金について考えることで、国民が国を支えていくのだという意識を持つことができるのではないか。まずは、私ができるような意識を持てるように、日々税金について考えていきたい。